

『自らの生き方を創る子どもの育成』～1人ひとりの個性を生かす教育の推進～

佐野台小学校だより

No.51 2026. 3. 24 校長 川上 誠治

いつもありがとうございます。

感謝しています。



運動会の総合得点のことで学校だよりNo.33でもお伝えしていた通り多数決で終わりとするのではなく、一人残らず『いいね』と言える答えを見つける努力をしてきました。

4人の子どもが考えてくれました。

ふわふわことばをいったら「〇〇のせいにする」ことがなくなる。



おたがいに仲直りで「ごめんね」という。



最後までがんばったポイントとか最後まで応援できたポイントがあったらいいかな。



あきらめるときにみんながんばれと応援する。



本当にステキな子どもたちです。

そして4人の子どもだけではなく5年生(最高にステキな6年生になると確信しています!!)が校長室に何度も来ました。

校長先生!!運動会の総合得点をありにしてほしいです!!理由は……(紹介するといっぱいになるので省略しますが、本当にしっかりと考えていました。)



5年生は話をする態度、話をきく態度もすばらしく、総合得点についてしっかりと話し合うことができました。しかし一人残らず『いいね』と言える答えは見つかりませんでした…。

佐野台小学校では『総合得点あり』『総合得点なし』のどちらもが『いいね!』といえる案を2年間話し合って決めました。それが今年の6月7日のような運動会です。

今年の6月7日の運動会は最高にステキでした(学校だよりNo.10, 11, 12参照)。総合得点はなかったけれど最高に盛り上がりました。そして子どもたちを見ていると最後の最後の最後まで全力で応援し合っていました。ボクの教師生活32年間で最高にステキな運動会でした。

この一年間、運動会の総合得点について職員会議などで話し合ってきました。その結論は『総合得点なし』です。

『勝ち負け』については学年ごとの勝ち負けをつけること、『勝ち負けへのこだわり』ではなく運動会の目的である『協力』にフォーカスにする(『〇〇のせいにする』『□□のせいで負けた』をなくす)ため『総合得点はなし』にする、『最後まで自分の組を全力で応援できる』ように今年の運動会のように子どもたちと一緒に取り組むこととしました。

P T Aさんにもこの話を伝えると…

子どもたちの声をきいてくださってありがとうございます。



『総合得点あり』も『総合得点なし』もどちらもしっかりと自分の意見が書かれていましたね。



学校の考えもよくわかりました。しかし『総合得点あり』とした子どもたちの意見も大切にしてください。



このあとP T Aさんと何時間も、何日も、学校運営協議会(地域のみなさんやP T Aさんたちと佐野台小学校をさらによくするために話し合う会)でも総合得点について話し合いました。最後の最後の最後までみんなが『いいね!』と言える案を考えました(努力しました)。

そしてP T Aさんと学校が考えた案が赤組対白組の大玉送りという競技を入れることです!! 赤組の1年から6年、白組の1年から6年が協力して取り組む競技を行うのです!! 今までの運動会では学年の勝負で終わっていたのを、1年から6年までみんなが協力してひとつになってする競技を行うというところで折り合い(これが最後の最後の最後までみんなが『いいね!』と言える案です)を見つけました。

この赤組対白組の大玉送りという1年から6年が協力してひとつになって

する競技を行うでご理解・ご協力をお願いします。子どもたちにもていねいに説明します。

1年間本当にありがとうございました。感謝しています。週に1回は子どもたちの様子、子育てについて、校長チャレンジなどを発信したいと考えていましたが、仕事に追われてなかなか発信できない時期があり申し訳ありません。

また、校長室を指導(叱る?謝罪?)の場にするのではなく、気楽に相談できるようなところにしたいと考えてきました。何人かの保護者のみなさんは気楽に来てくれるようになりましたが、もっとみなさんに気楽に相談できるような努力を続けますね!! 子育てに答えはありませんが、子育てを一人でしようとするのはしんどくなってきます。学校も一緒に考えますからね。そして学校はスクールカウンセラー(心理面)やスクールソーシャルワーカー(環境面)など専門家につなげることが出来ますからね。

岬町から泉佐野市に異動になって不安だらけでしたが、泉佐野市の佐野台小学校に来て本当によかったと思います。1年間、佐野台小学校の教育にご理解とご協力を本当にありがとうございました。感謝しています。

おしまい

